

## 東京 2020 大会の開催延期等について

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、東京 2020 大会の 2020 年開催は延期。今後、2021 年に向けて大会準備を進めていく。

### 1 開催延期の経緯

#### 3 月 23 日 ○IOC 理事会で大会延期も含めた検討を進めることに合意

(議論は 4 週間以内に完了) (参考資料 1、2)

#### 3 月 24 日 ○安倍内閣総理大臣と IOC バッハ会長が電話会談 (参考資料 3)

(小池東京都知事、森東京 2020 組織委員会会長、菅内閣官房長官、橋本東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣同席)

- アスリート、各国国際競技連盟、各国オリンピック委員会等の意向に鑑み、大会中止が選択肢にないことで一致
- 世界の状況が継続的に悪化していることから、本年 7 月の開催、さらには年内の開催も不可能であり、延期とせざるを得ない旨一致
- 概ね 1 年程度延期することを軸として、遅くとも 2021 年夏までの開催に向けて、具体的に検討していくことで一致

**○IOC 理事会で、遅くとも 2021 年の夏までの時期に延期すること等が承認された。**

#### ○IOC と組織委員会が共同声明発表 (参考資料 4、5)

- 安倍総理と IOC バッハ会長は、東京 2020 大会を 2020 年ではなく、遅くとも 2021 年の夏までの時期に延期することの結論に達した。
- 東京 2020 大会が、世界への希望の道しるべになりうること、聖火が、世界が現在置かれている状況であるトンネルの先にある光となりうることに同意した。
- 聖火を日本に留めることに合意した。
- 東京 2020 大会の名称を「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」のままとすることで合意した。

### ○小池知事コメント（参考資料 6）

- ▶ 都としても、全力を挙げて、選手や観客の皆様はじめすべての方々にとって、安全安心な大会の開催を実施するため、組織委員会、国など関係者と一丸となって、しっかりと準備を進めていく。

### 3月30日 ○小池知事、バツハ会長、森会長、橋本大臣が大会日程について協議（参考資料 7）

- ▶ 開催日程について、オリンピックは2021年7月23日（金）～8月8日（日）、パラリンピックは8月24日（火）～9月5日（日）で合意

### ○IOC 臨時理事会で、新たな開催日程が承認された。

### ○小池知事コメント（参考資料 8）

- ▶ 今後、全力を挙げて、新型コロナウイルスに打ち勝ち、安全安心な東京 2020 大会の実施に向け、組織委員会、国など関係者と一丸となって準備を進めていく。

## 2 延期決定後の動き

### （1）エグゼクティブプロジェクトレビュー

4月16日、IOCと組織委員会は、東京2020大会延期に伴う今後の大会準備の枠組みについて合意（参考資料 9、10）

- 2021年夏に大会を開催するプロセスは、コーツ委員長と森会長が率いるジョイント・ステアリング・コミッティーにより統括される。その下にIOC側と組織委員会側のそれぞれにタスクフォースを置く。
- 2021年夏の大会では、全ての関係者と調整の上に決定した会場と競技スケジュールを踏襲することが望ましい。組織委員会を含む日本側は、各会場所有者に対し、2021年大会の新しい開催日程における使用を要請し、それに向けた準備を行う。
- アジェンダ2020に基づき、サービスレベルの水準を最適化・合理化する施策を検討するとともに、延期によるコスト削減を図る。IOCと日本側は共同で、延期のもたらす影響について引き続き評価と議論を行う。
- 新型コロナウイルス感染症の影響につき、必要な対応策を2021年の大会運営計画に盛り込む。

### （2）IOC 理事会

5月14日、IOCは、新型コロナウイルス感染症の危機に対処するため、最大8億米ドルの財務計画を承認（参考資料 11、12）

**International Olympic Committee Press Release**

22 MAR 2020 (日本時間 3 月 23 日未明)

**Health and safety paramount as IOC Executive Board agrees to step up scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020**

**To safeguard the health of all involved and to contribute to the containment of COVID-19, the Executive Board (EB) of the International Olympic Committee (IOC) today announced that the IOC will step up its scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020.**

These scenarios relate to modifying existing operational plans for the Games to go ahead on 24 July 2020, and also for changes to the start date of the Games. This step will allow better visibility of the rapidly changing development of the health situation around the world and in Japan. It will serve as the basis for the best decision in the interest of the athletes and everyone else involved.

On the one hand, there are significant improvements in Japan where the people are warmly welcoming the Olympic flame. This could strengthen the IOC's confidence in the Japanese hosts that the IOC could, with certain safety restrictions, organise Olympic Games in the country whilst respecting its principle of safeguarding the health of everyone involved.

On the other hand, there is a dramatic increase in cases and new outbreaks of COVID-19 in different countries on different continents. This led the EB to the conclusion that the IOC needs to take the next step in its scenario-planning.

A number of critical venues needed for the Games could potentially not be available anymore. The situations with millions of nights already booked in hotels is extremely difficult to handle, and the international sports calendar for at least 33 Olympic sports would have to be adapted. These are just a few of many, many more challenges.

Therefore, further to the study of different scenarios, it would need the full commitment and cooperation of the Tokyo 2020 Organising Committee and the Japanese authorities, and of all the International Federations (IFs) and National Olympic Committees (NOCs). It would also require commitment from, and collaboration with, the Rights-Holding Broadcasters (RHBs) and our TOP Partner sponsors, as part of their continued and valued support to the Olympic Movement, as well as cooperation from all the Games' partners, suppliers and contractors. It is in this spirit of the Olympic stakeholders' shared commitment to the Olympic Games, and in light of the worldwide deteriorating situation, that the IOC EB has today initiated the next step in the IOC's scenario-planning.

The IOC will, in full coordination and partnership with the Tokyo 2020 Organising Committee, the Japanese authorities and the Tokyo Metropolitan Government, start detailed discussions to complete its assessment of the rapid development of the worldwide health situation and its impact on the

Olympic Games, including the scenario of postponement. The IOC is confident that it will have finalised these discussions within the next four weeks, and greatly appreciates the solidarity and partnership of the NOCs and IFs in supporting the athletes and adapting Games planning.

The IOC EB emphasised that a cancellation of the Olympic Games Tokyo 2020 would not solve any of the problems or help anybody. Therefore, cancellation is not on the agenda.

After the EB meeting, IOC President Thomas Bach today wrote to the global athlete community to provide them with an explanation of the IOC's approach.

In the letter, Bach stated once more that safeguarding the health of everyone involved and contributing to contain the virus is the fundamental principle, and said: "Human lives take precedence over everything, including the staging of the Games. The IOC wants to be part of the solution. Therefore we have made it our leading principle to safeguard the health of everyone involved, and to contribute to containing the virus. I wish, and we all are working for this, that the hope so many athletes, NOCs and IFs from all five continents have expressed will be fulfilled: that at the end of this dark tunnel we are all going through together, not knowing how long it is, the Olympic flame will be a light at the end of this tunnel."

※IOC ホームページより引用

"Health and safety paramount as IOC Executive Board agrees to step up scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020" (参照日 : 2020 年 3 月 23 日)

<https://www.olympic.org/news/health-and-safety-paramount-as-ioc-executive-board-agrees-to-continue-scenario-planning-for-the-olympic-games-tokyo-2020>

IOC（国際オリンピック委員会）プレスリリース 参考和訳  
2020年3月22日（日本時間3月23日未明）

## 健康と安全が再重要 IOC 理事会が東京 2020 オリンピック競技大会のシナリオ検討を進めることに合意

全ての関係者の健康を守り、新型コロナウイルスの封じ込めに貢献するため、IOC 理事会は、本日、東京 2020 オリンピックのシナリオ検討を進めると発表した。

これらのシナリオは、2020年7月24日開幕のための既存の大会運営計画の修正、また、大会の開幕日の変更に関わるものである。このステップは、世界と日本で急速に変化する衛生状況の可視化をより可能にし、選手と全ての関係者の利益において最善策を行うための基盤となる。

一方で、オリンピック聖火を人々が温かく歓迎している日本では、大きな改善がみられている。これは、全ての関係者の健康を守る原則を尊重しつつ、一定の安全に関する制約のもと、オリンピック競技大会は日本で開催できると、IOC は日本の開催に対する自信を一層強めている。

他方で、新型コロナウイルスの感染者数は急速に増加し、新たな流行が様々な大陸、様々な国々で起きている。そのため、理事会は、IOC がシナリオの検討において次のステップに進む必要があるとの結論に至った。

大会に必要ないくつかの重要な会場がもはや使用できないかもしれない。非常に多くの泊数分のホテルが予約されている状況への対処は難しく、少なくとも 33 競技の国際スポーツカレンダーも調整が必要になるだろう。これらは数多くの課題のいくつかに過ぎず、他にも数多くの課題がある。

そのため、様々なシナリオの詳細な検討には、東京 2020 組織委員会、日本政府、全ての IF、NOC の完全なコミットメントと協力が必要である。また、全ての大会パートナー、サプライヤー、コントラクターと合わせて、放送権者（RHB）や TOP パートナーについても、オリンピックムーブメントへの継続的な価値ある支援の一環として、コミットメントと協調が必要となる。これはオリンピックステークホルダーが共有しているオリンピック競技大会に対するコミットメントの精神である。そして、この世界規模で状況が悪化している中、IOC 理事会は、本日、IOC のシナリオ検討の次のステップに着手した。

IOC は、東京 2020 組織委員会、日本政府、そして東京都との完全な協力とパートナーシップのもと、世界の衛生状況に関する急速な展開とオリンピック競技大会への影響の評価を完了すべく詳細な議論をスタートする。延期のシナリオも含む。IOC は、これらの議論が今後 4 週間以内に終了することに自信を持っており、選手を支援し大会計画を修正するに

あたり、NOC と IF の連帯とパートナーシップに大いに感謝している。

IOC 理事会は、東京 2020 大会の中止はいかなる問題も解決せず、誰の助けにもならないことを強調した。そのため、中止は議題にはない。

理事会後、IOC トーマス・バッハ会長は、IOC のアプローチに関して説明するため、世界のアスリートコミュニティに対して書簡を送った。

書簡の中で、バッハ会長は、全ての関係者の健康を守り、ウイルスの封じ込めに貢献することが大原則であると改めて述べている。「人命は、大会の開催を含め全てに優先される。IOC は解決の一助になりたい。そのため、全ての関係者の健康を守り、ウイルスの封じ込めに貢献することを重要な原則として掲げている。私が願い、そして私たちすべてが取り組んでいる目的は、全五大陸の多くのアスリート、NOC および IF が示す希望がかなえられることだ。つまり、どれくらいの長さか分からないが、私たちが共に通過しているこの暗いトンネルを抜けた先に、オリンピック聖火が灯っていることである。」

※IOC プレスリリースをオリンピック・パラリンピック準備局が参考和訳

“Health and safety paramount as IOC Executive Board agrees to step up scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020” (参照日：2020 年 3 月 23 日)

<https://www.olympic.org/news/health-and-safety-paramount-as-ioc-executive-board-agrees-to-continue-scenario-planning-for-the-olympic-games-tokyo-2020>

永田クラブ  
文科クラブ  
JSP0 クラブ      へ貼り出し



令和 2 年 3 月 24 日  
内 閣 官 房

### 【お知らせ】

#### 安倍総理大臣とバッハ国際オリンピック委員会会長との電話会談

本 2 4 日午後 8 時 0 0 分から約 4 5 分間、安倍晋三内閣総理大臣は、トーマス・バッハ国際オリンピック委員会 (IOC) 会長 (Mr. Thomas BACH, President of the International Olympic Committee) と電話会談を行ったところ、概要以下のとおりです。(森東京 2 0 2 0 組織委員会会長、小池東京都知事、菅内閣官房長官、橋本東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣他同席。)

1. 双方は、アスリート、I F (各国国際競技連盟)、N O C (各国オリンピック委員会) 等の意向に鑑み、大会中止が選択肢にはないことで一致しました。
2. その上で、双方は、アスリート及び観客の安心・安全を確保することが最も重要であり、この観点から、現在の世界の状況が継続的に悪化していることに鑑み、予定どおり本年 7 月に開催することは不可能であり、更には年内に開催することも不可能であり、延期とせざるを得ない旨一致しました。
3. 上記の理解の下、双方は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の実施に向けて、I O C と、東京 2 0 2 0 組織委員会、政府、東京都を始め、内外の関係機関が一体となり、遅くとも 2021 年夏までの実施に向けて、具体的に検討していくことで一致しました。





## **International Olympic Committee Homepage**

24 MAR 2020

### **Joint Statement from the International Olympic Committee and the Tokyo 2020 Organising Committee (2020.3.24)**

The President of the International Olympic Committee (IOC), Thomas Bach, and the Prime Minister of Japan, Abe Shinzo, held a conference call this morning to discuss the constantly changing environment with regard to COVID-19 and the Olympic Games Tokyo 2020.

They were joined by Mori Yoshiro, the President of the Tokyo 2020 Organising Committee; the Olympic Minister, Hashimoto Seiko; the Governor of Tokyo, Koike Yuriko; the Chair of the IOC Coordination Commission, John Coates; IOC Director General Christophe De Kepper; and the IOC Olympic Games Executive Director, Christophe Dubi.

President Bach and Prime Minister Abe expressed their shared concern about the worldwide COVID-19 pandemic, and what it is doing to people's lives and the significant impact it is having on global athletes' preparations for the Games.

In a very friendly and constructive meeting, the two leaders praised the work of the Tokyo 2020 Organising Committee and noted the great progress being made in Japan to fight against COVID-19.

The unprecedented and unpredictable spread of the outbreak has seen the situation in the rest of the world deteriorating. Yesterday, the Director General of the World Health Organization (WHO), Tedros Adhanom Ghebreyesus, said that the COVID-19 pandemic is "accelerating". There are more than 375,000 cases now recorded worldwide and in nearly every country, and their number is growing by the hour.

In the present circumstances and based on the information provided by the WHO today, the IOC President and the Prime Minister of Japan have concluded that the Games of the XXXII Olympiad in Tokyo must be rescheduled to a date beyond 2020 but not later than summer 2021, to safeguard the health of the athletes, everybody involved in the Olympic Games and the international community.

The leaders agreed that the Olympic Games in Tokyo could stand as a beacon of hope to the world during these troubled times and that the Olympic flame could become the light at the end of the tunnel in which the world finds itself at present. Therefore, it was agreed that the Olympic flame will stay in Japan. It was also agreed that the Games will keep the name Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020.

※IOC ホームページより引用

“Joint Statement from the International Olympic Committee and the Tokyo 2020 Organising Committee” (参照日 : 2020 年 3 月 24 日)

<https://www.olympic.org/news/joint-statement-from-the-international-olympic-committee-and-the-tokyo-2020-organising-committee>

IOC（国際オリンピック委員会）ホームページ 参考和訳

2020年3月24日

## 国際オリンピック委員会及び東京 2020 組織委員会による共同声明

国際オリンピック委員会（IOC）のトーマス・バハ会長と日本国総理大臣の安倍晋三が、今朝電話会議を開き、新型コロナウイルス感染症と東京 2020 オリンピック競技大会に関する絶えまなく変化し続ける状況について話し合った。

この会議には、森喜朗 東京 2020 組織委員会会長、橋本聖子 オリンピック競技大会担当大臣、小池百合子 東京都知事、ジョン・コーツ IOC 調整委員会委員長、クリストフ・デケッパール IOC 事務総長、クリストフ・デュビ IOC オリンピック競技大会エグゼクティブディレクターも同席した。

バハ会長と安倍総理大臣は、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックと、それが人々の生活に与えている影響、また、世界中のアスリートの大会準備に与えている大きな影響について、共通の懸念を表明した。

非常に友好的で建設的な会談の中、両首脳は、東京 2020 組織委員会の活動を称賛し、新型コロナウイルス感染症に立ち向かうために現在日本で行われている取り組みの目覚ましい進捗状況に言及した。

前例のない予測不能な感染拡大による状況の悪化が、世界の他の地域において確認されている。世界保健機関（WHO）のテドロス・アダノム・ゲブレイェソス事務局長は、昨日、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが「加速している」と述べた。現在、世界中のほぼ全ての国にわたり 37 万 5 千人以上の患者が記録されており、その数は刻一刻と増加している。

現在の状況と、本日 WHO から提供された情報に基づき、IOC 会長と日本の総理大臣は、選手、オリンピック競技大会に関わる全ての人々、そして国際社会の健康を守るために、東京で開催される第 32 回オリンピック競技大会を、2020 年ではなく、遅くとも 2021 年の夏までの時期に延期しなければならないとの結論に達した。

両者は、東京でのオリンピックが、こういった困難な時代における世界への希望の道しるべ

となりうること、聖火は、世界が現在置かれている状況であるトンネルの先にある光となりうることに同意した。そのため、聖火が日本に留めることに合意した。また、同大会の名称を「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」のままとすることで合意された。

※IOC ホームページをオリンピック・パラリンピック準備局が参考和訳

“Joint Statement from the International Olympic Committee and the Tokyo 2020 Organising Committee”（参照日：2020年3月24日）

<https://www.olympic.org/news/joint-statement-from-the-international-olympic-committee-and-the-tokyo-2020-organising-committee>



令和2年3月25日  
オリンピック・パラリンピック準備局

## 東京2020大会開催延期に関する知事コメント

3月24日に同意された、東京2020大会の延期について知事のコメントを下記のとおり、お知らせいたします。

### 記

#### ■ 東京都知事 小池 百合子

昨日、安倍総理とIOCバハ会長とで、改めて中止はない、東京2020大会について、観客の皆さんにとって安全安心な大会を概ね1年を軸として遅くとも2021年の夏までに開催すること、及び東京2020大会の名称を維持することで一致され、IOCの理事会で承認されました。

中止はないということがクリアになり、ゴールも具体的になりました。これまで心配されていた選手の皆様にとっても目標ができ、大会開催に向けてご協力をいただいた皆さんや、オリンピック・パラリンピックを楽しみにしていた皆さんのことを思うとほっといたしました。

今後、新型コロナウイルスに打ち勝ち、来年の大会を成功に導くためには、様々な取組が必要です。引き続き、多くの皆様のご支援ご協力が必要です。都としても、全力を挙げて、選手や観客の皆様はじめすべての方々にとって、安全安心な大会の開催を実施するため、組織委員会、国など関係者と一丸となって、しっかりと準備を進めてまいります。





## PRESS RELEASE

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

<Tokyo 2020.NEWS-2020-086>

2020年3月30日

# 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 開催日程について

本で行われた国際オリンピック委員会（IOC）臨時理事会において、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の新たな開催日程が承認されましたのでお知らせします。

### 【開催日程】

- 東京 2020 オリンピック : 2021年7月23日（金）～2021年8月8日（日）
- 東京 2020 パラリンピック : 2021年8月24日（火）～2021年9月5日（日）

- 参考 : IOC プレスリリース

<https://www.olympic.org/news/ioc-ipc-tokyo-2020-organising-committee-and-tokyo-metropolitan-government-announce-new-dates-for-the-olympic-and-paralympic-games-tokyo-2020>

### ■ 森喜朗 東京 2020 組織委員会会長コメント

本日、急遽 IOC バッハ会長との電話会談を行い、橋本大臣、小池知事にも同席いただき、大会日程について集中的な協議を行いました。私からは、選手の選考、予選、準備等には一定程度の期間を要すること、また、輸送、ボランティア、そしてチケットホルダーの皆さまにとっては、夏休み期間中の方が望ましいと考えられること、更に新型コロナウイルス感染症の状況等を勘案すると1年延期の夏開催が望ましいと考え、7月から8月の開催案を提案しました。バッハ会長にはIF等関係者の皆さまとも相談の上、受け入れていただき、ありがたいと考えております。

史上初めての大会延期となり、様々な課題が既に浮き彫りになっておりますが、開催日程は今後の準備の要であり、早期の決定は今後の準備を加速させると確信しております。この短期間に決定に向けて大変ご尽力いただいた、都や国の関係者の皆さまには感謝申し上げます。引き続き、来年の大会成功に向けて尽力してまいります。

The Worldwide Olympic Partners						
Tokyo 2020 Olympic Gold Partners						
<b>TOKYO 2020</b>						

---

## 東京2020の大会ビジョン

---

スポーツには、世界を変える力がある。2020年は、史上最もイノベーティブで、世界中にポジティブな変革をもたらす大会とする。

1) 全員が自己ベスト 2) 多様性と調和 3) 未来への継承

<https://tokyo2020.org/>

---





令和 2 年 3 月 3 0 日  
オリンピック・パラリンピック準備局

## 東京 2 0 2 0 大会開催日程の決定に関する知事コメント

東京 2 0 2 0 大会の開催日程が本日決定されたため、知事のコメントを下記のとおり、お知らせいたします。

### 【開催日程】

- 東京 2020 オリンピック 2021 年 7 月 23 日（金）～8 月 8 日（日）
- 東京 2020 パラリンピック 2021 年 8 月 24 日（火）～9 月 5 日（日）

記

### ■ 東京都知事 小池 百合子

現下の世界的な新型コロナウイルス感染症の状況からすれば、アスリートや観客にとって安全で安心な大会を実現するためには、開催まで時間が必要です。

また、競技日程、それに伴うチケットや会場の対応、ボランティア、輸送などこれまで準備してきたことも時期的に一致することから、スムーズに進められます。

このことから、2021 年 7 月 23 日の開会が望ましいと考えます。

これまで、選手、ボランティア、聖火ランナー、地元自治体など多くの方々にご心配をおかけしたことと思います。目標が明確になったことから、今後、全力を挙げて、新型コロナウイルスに打ち勝ち、安全安心な東京 2020 大会の実施に向け、組織委員会、国など関係者と一丸となって準備を進めていきます。





## PRESS RELEASE

TOKYO 2020

# IOC and Tokyo 2020 Joint Statement Framework for Preparation of the Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 Following Their Postponement to 2021

**Tokyo, 16 April 2020** – The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games (Tokyo 2020) and the International Olympic Committee (IOC) met today for an Executive Project Review via teleconference.

IOC Coordination Commission Chair John Coates and Olympic Games Executive Director Christophe Dubi joined Tokyo 2020 President MORI Yoshiro and CEO MUTO Toshiro for the meeting. During the productive discussion, Tokyo 2020 and the IOC agreed on the following framework, that will govern preparations for the postponed Games:

### Governance

- The process to deliver the Games in 2021 is overseen by a Joint Steering Committee which is led by IOC Coordination Commission Chair John Coates and Tokyo 2020 President MORI Yoshiro. The Committee will include Tokyo 2020 CEO MUTO Toshiro and IOC Olympic Games Executive Director Christophe Dubi.
- The meetings of the Joint Steering Committee will be held whenever necessary, in order to ensure permanent coordination and efficient decision-making.
- Supporting this Joint Steering Committee, Tokyo 2020 and the IOC will each have their own respective task forces: the “Here we go” Task Force on the IOC side, and the “New Launch” Task Force on the Tokyo 2020 side.

### Principles

- The key elements of the planning for 2021 should replicate the existing Games Delivery Plan for 2020. Particular focus will be placed on the venues and the competition schedule, which were originally agreed by all stakeholders as the best plan for the 2020 edition. On this basis, the Japanese side including Tokyo 2020 will request that each planned venue owner organises the Games according to this schedule on the new dates in 2021. The Japanese side will also seek understanding for these preparations.
- On the basis of Olympic Agenda 2020, the IOC, the International Paralympic Committee (IPC) and all



Olympic and Paralympic Movement stakeholders, in conjunction with Japanese side including the Tokyo 2020 Organising Committee, will explore all opportunities to optimise and streamline the scope and service levels at the Games, and reduce the costs that have been caused by the postponement. The IOC and the Japanese side, including the Tokyo 2020 Organising Committee, will continue to assess and discuss jointly about the respective impacts caused by the postponement.

- A number of measures addressing the potential impact of COVID-19 will be incorporated into the Games Delivery Plan for the Games in 2021.

### Timeline

- The details of planning for Tokyo 2020 in 2021 are being examined this month with a view to establishing a new roadmap for the Games by May 2020, in order to then align resources and priorities accordingly.

Speaking after the meeting, IOC Coordination Commission Chair John Coates said, "Since the postponement of Tokyo 2020 to 2021 was agreed a few weeks ago, the strong spirit of collaboration between the IOC, the IPC, the Olympic Movement, Tokyo 2020 and the Japanese authorities has already allowed us to bring some clarity and certainty to athletes, fans and stakeholders around the world. The principles outlined today will allow us to continue in this spirit, and to answer the many questions that remain, in as efficient a manner as possible.

We believe that the Olympic Games Tokyo 2020 can stand as a beacon of hope to the world during these troubled times, and that the Olympic flame can be the light at the end of the tunnel in which the world finds itself at present. The Joint Steering Committee will give its all to ensure that this is the case."

Tokyo 2020 President MORI Yoshiro commented, "Soon after the postponement of the Tokyo 2020 Games on 24 March 2020, Tokyo 2020 established a 'New Launch' Task Force on 26 March and we have been working since then to create a structure capable of overcoming these unprecedented challenges. We believe that today's new step is an important achievement in advancing over the coming year what we have prepared over the past five to six years. We will continue to work closely with all stakeholders to ensure the success of the Games."



## PRESS RELEASE

TOKYO 2020

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
<Tokyo 2020,NEWS-2020-089>  
2020年4月16日

### 東京2020組織委員会・国際オリンピック委員会 共同ステートメント 東京2020大会延期に伴う今後の大会準備の枠組みについて

東京2020組織委員会と、国際オリンピック委員会（IOC）は、本日、テレビ電話会議方式によるエグゼクティブプロジェクトレビューを開催しました。IOCからは、ジョン・コーツ委員長、クリストフ・デュビオリック競技大会エグゼクティブディレクターらが出席、組織委員会からは、森喜朗会長、武藤敏郎事務総長らが出席しました。

会議の中で、組織委員会とIOCは、東京2020大会延期に伴う今後の大会準備の枠組みについて、以下のとおり合意したので、お知らせします。

#### ガバナンス

- 2021年夏に大会を開催するプロセスについては、コーツ委員長と森会長が率い、武藤事務総長とデュビオリック競技大会エグゼクティブディレクターがメンバーとなる、ジョイント・ステアリング・コミッティーによって統括される。
- ジョイント・ステアリング・コミッティーは、効率的かつ確実に調整と意思決定を行うため、適宜行う。
- このジョイント・ステアリング・コミッティーの下、IOC側は「Here we go」タスクフォース、東京2020側は「新たな出発本部」というそれぞれのタスクフォースを置く。

#### 原則

- 2021年夏の大会では、2020年の大会運営計画、特に全ての関係者と調整の上に決定した会場と競技スケジュールを踏襲することが望ましい。この考えに則り、東京2020を含む日本側は、各会場所有者に対し、2021年大会の新しい開催日程における使用を要請し、それに向けた準備を行うことの理解を求める。
- オリンピックアジェンダ2020に基づき、IOC、IPC、全てのオリンピック・パラリンピックムーブメント関係者と東京2020を含む日本側が共同で、サービスレベルの水準を最適化・合理化する施策を



検討するとともに、延期によるコスト削減を図るものとする。IOC と組織委員会を含む日本側は共同で、延期のもたらす影響について、引き続き評価と議論を行うこととする。

- COVID-19 の影響につき、必要な対応策を 2021 年の大会運営計画に盛り込む。

## タイムライン

- 2021 年に向けた運営計画の詳細については 4 月に検討を行い、リソースと優先順位を調整し、5 月にロードマップを固めていく。

### ■森 喜朗 東京 2020 組織委員会会長コメント

3 月 24 日の大会延期決定後、組織委員会では、26 日には「新たな出発 東京 2020 大会実施本部」を立ち上げ、前例のないこのチャレンジを乗り越えるための体制作りを進めてきました。本日の合意は、5 年、6 年かけて準備してきたものを、今後 1 年で推し進める上では、重要な成果と考えています。引き続き、全ての関係者の皆さまと緊密に連携し、大会開催に向けて尽力してまいります。

### ■ジョン・コーツ 第 32 回オリンピック競技大会（2020／東京）調整委員会委員長コメント

“Since the postponement of Tokyo 2020 to 2021 was agreed a few weeks ago, the strong spirit of collaboration between the IOC, the IPC, the Olympic Movement, Tokyo 2020 and the Japanese authorities has already allowed us to bring some clarity and certainty to athletes, fans and stakeholders around the world. The principles outlined today will allow us to continue in this spirit and to answer the many questions that remain, in as efficient a manner as possible.

“We believe that the Olympic Games Tokyo 2020 can stand as a beacon of hope to the world during these troubled times and that the Olympic flame can be the light at the end of the tunnel in which the world finds itself at present. The Joint Steering Committee will give its all to ensure that this is the case.”

(参考和訳)

数週間前に東京 2020 大会の開催を 2021 年に延期することが合意されて以来、IOC、IPC、オリンピック・ムーブメント、東京 2020 組織委員会、そして日本政府の関係当局の方々との強固な相互協力の精神によって、世界中のアスリートやファンの方々そして関係者の方々に、明確さと確実性をもたらすことができました。本日示された原則により、我々は、相互協力の精神を継続し、残された多くの課題に可能な限り効率的な方法で対応していくことができます。

東京 2020 大会は、このような混迷の時代において、世界中の希望の光です。また、オリンピックの聖火は、現在世界が直面しているトンネルの先にある光となりうると信じています。ジョイント・ステアリング・コミッティーは、その実現のために全力を尽くします。

## International Olympic Committee Homepage

14 May 2020

### IOC approves a financial envelope of up to USD 800 million to address the COVID-19 crisis

**The International Olympic Committee (IOC) anticipates that it will have to bear costs of up to USD 800 million for its part of the responsibilities for the organisation of the Olympic Games Tokyo 2020, its own extended operations and the support for the wider Olympic Movement. This amount will be covered by the IOC itself, including any funding from the Olympic Foundation.**

This number includes the cost for the organisation of the postponed Games of up to USD 650 million for the IOC, and an aid package of up to USD 150 million for the Olympic Movement, including the International Federations (IFs), the National Olympic Committees (NOCs) and the IOC-Recognised Organisations, to enable them to continue their sports, their activities and their support to their athletes. Today, the IOC Executive Board (EB) approved this financial plan.

At the moment, the IOC is undergoing a deep analysis process to evaluate and assess the impact of the COVID-19 crisis on all of its operations. This is a complex exercise because of the constantly changing factors which have to be considered in the current environment.

The IOC, as the leader of the Olympic Movement, is playing a critical role in supporting its stakeholders during the COVID-19 outbreak. To stand in solidarity with the Olympic Movement, it has also put together an aid package of up to USD 150 million, from which the IFs, NOCs and IOC-Recognised Organisations can benefit. This funding is meant to help them continue their mission to develop their sports, prepare for the Olympic Games and support their athletes. The IOC and its stakeholders are still going through the analysis process to assess the needs on a case-by-case basis.

Additionally, the Swiss Federal Council agreed yesterday to offer support to the Switzerland-based IFs in a joint programme with the IOC. "The IOC thanks the Swiss Federal Council for the offer to support the International Federations jointly with the IOC. We are fully committed to successfully delivering this International Sports Federation support programme in cooperation with the Swiss authorities. This initiative is a great acknowledgement of the

importance of the International Sports Federations and sport,” IOC President Thomas Bach commented.

It was previously announced that Olympic Solidarity has increased the budget for its athlete programmes by USD 15 million, which covers scholarships for over 1,600 athletes from 185 NOCs and the IOC Refugee Olympic Team.

Olympic Solidarity had also increased the budget for IOC subsidies for the participation of NOCs in the Olympic Games by USD 10.3 million. This additional budget will allow Olympic Solidarity to make available additional funds relating to exceptional Games-related costs incurred by NOCs due to the postponement of the Olympic Games Tokyo 2020.

President Bach said: “The Olympic Movement is facing an unprecedented challenge. The IOC has to organise postponed Olympic Games for the first time ever, and has to help its stakeholders come through this global crisis. This new situation will need all our solidarity, creativity, determination and flexibility. We shall all need to make sacrifices and compromises. Extraordinary circumstances call for extraordinary measures. This situation requires every one of us to do our part, and this applies to all of us, including the IOC. With today’s financial plans, we are addressing these needs.”



IOC (国際オリンピック委員会) ホームページ 参考和訳

2020年5月14日

IOCは、COVID-19危機に対処するため、最大8億米ドルの財務エンベロープを承認

国際オリンピック委員会 (IOC) は、東京 2020 大会の組織の責任の一部として、そして自らの拡大された業務、より広いオリンピック・ムーブメントの支援のため、最大 8 億米ドルの費用を負担する必要があると見込んでいます。この金額は、IOC 自身によって賄われ、オリンピック財団からの資金も含まれます。

この金額には、IOC の負担する最大 6 億 5,000 万ドルとなる延期された大会の組織への費用、および国際競技連盟 (IF)、国内オリンピック委員会 (NOCs) と IOC 認定組織を含むオリンピック・ムーブメントへの最大 1 億 5,000 万ドルの援助計画が含まれており、これらの団体が、スポーツ、活動、選手への支援を継続できるようにします。今日、IOC 理事会 (EB) はこの財務計画を承認しました。

現在、IOC は、COVID-19 (訳注：新型コロナウイルス感染症) の危機がすべての運営に与える影響を見積り、評価するための、詳細な分析プロセスを行っています。現在の状況で絶えず変化する要因を考慮しなければならないため、これは複雑な業務です。

IOC はオリンピック・ムーブメントのリーダーとして、COVID-19 の発生時にステークホルダーを支援する上で重要な役割を果たしています。オリンピック・ムーブメントと連帯するために、IF、NOC、IOC 認定組織が補助を受けられる最大 1 億 5,000 万ドルの援助計画もまとめました。この資金は、スポーツを発展させ、オリンピックに向けて準備し、選手を支援するという彼らの使命の継続に資することを目的としています。IOC とそのステークホルダーは、個々の場合に依ってニーズを評価するための分析プロセスを行っているところです。

さらに、スイス連邦参事会は、昨日、IOC との共同プログラムにより、スイスを拠点とする IF に支援を提供することに合意しました。「IOC は、我々と共同で IF を支援するという申し出をしてくれたスイス連邦参事会に感謝します。我々は、スイス当局と協力して、この国際競技連盟の支援プログラムをしっかりと提供することに全力を尽くします。この新しい取り組みは、国際競技連盟とスポーツの重要性を認める証です」と IOC のトーマス・バッハ会長はコメントしました。

すでに発表されていますが、オリンピック・ソリダリティー (訳注：NOC 援助のための選

手育成プログラム)は、185のNOCとIOC難民チームの、1,600人を超えるアスリートへの奨学金を対象とするアスリートプログラムの予算を1,500万ドル引き上げました。

また、オリンピック・ソリダリティーは、NOCのオリンピック大会参加のための補助金の予算を1030万米ドルも引き上げました。この予算増額によって、東京2020大会の延期によりNOCが被る特別な大会関連コストに関して、オリンピック・ソリダリティーが追加資金を提供することができるようになります。

バッハ会長は、次のように述べています。「オリンピック運動は前例のない課題に直面しています。IOCは、史上初めて、延期された大会を開催し、この世界的危機をステークホルダーが切り抜けられるよう助けなければなりません。こうした新しい状況においては、我々の団結、創造性、決断力、柔軟性が求められます。私たちは皆、犠牲と妥協を求められるでしょう。特別な状況では、特別な対策が必要です。この状況では、私たち一人ひとりが自分の役割を果たさなければならず、これはIOCを含めた皆に当てはまります。今日の財務計画で、私たちはそうした必要性に対応していきます。」

※IOC ホームページをオリンピック・パラリンピック準備局が参考和訳

<https://www.olympic.org/news/ioc-approves-a-financial-envelope-of-up-to-usd-800-million-to-address-the-covid-19-crisis>

(参照日：2020年5月15日)